

Mycoplasma arginini

ウシの肺炎や乳汁から分離されるマイコプラズマ 広い宿主域を持ち、ヒツジ、ヤギ、ブタなどからも分離される。単独感染での病原性は疑問視されるが、他のレンサ球菌などとの重複感染時に乳腺炎を増悪させる可能性が報告されている。培養細胞に感染報告の多い**主要6種の中の1種**。

DNA染色では**球状粒子として観察されるが細胞への吸着は弱い**。

感染濃度が低い場合は小数の細胞のわずかな領域にしか吸着が認められない為、十分な視野を観察する必要がある。低吸着タイプのマイコプラズマとしてDNA染色の陽性コントロールに使用され、偽陰性の指標とされる。

